

「うつのみやジャズのまち」をケーススタディとした 文化資源によるまちづくりの社会＝空間構造に関する研究

宇都宮大学大学院 学生会員 ○根本 拓治
宇都宮大学 正会員 阪田 和哉

1.はじめに

近年まちづくりにおいて個性豊かな地域の特性を生かすことが求められてきており、さまざまな文化的ソフトが手段として用いられている。

宇都宮市では「うつのみやジャズのまち」として、ジャズ文化を用いた様々なまちづくりを行っている。その主な手段として、ジャズフェスティバルなどのイベントの開催や宇都宮市出身のプロ演奏家渡辺貞夫氏の顕彰事業などがあり、宇都宮の「餃子」文化と合わせて多くの来場者を集めている。

このまちづくりをより効果的に行うためには、まちづくり事業がどのようなあり方をしているのかを把握する必要がある。そこで本研究では、文化の担い手(演奏者)にとって最適なまちづくりを行うため、イベント時における社会＝空間構造に着目し、宇都宮の様々なジャズ団体、および事業主体へのヒアリング、イベント時の演奏者へのアンケートから、「うつのみやジャズのまち」の主体意識、およびそこから導き出されるイベント時のジャズ文化の社会＝空間構造について明らかにすることを目的とする(図1)。

ここで、本研究における社会＝空間構造¹⁾とは、都市の内部の空間的なあり方とそこでの社会的な関係のことと定義する。

2.「うつのみやジャズのまち」概要

「街角から音楽が聴こえる」を方針とし、宇都宮を「ジャズのまち」にと2001年に市と民間団体の代表が

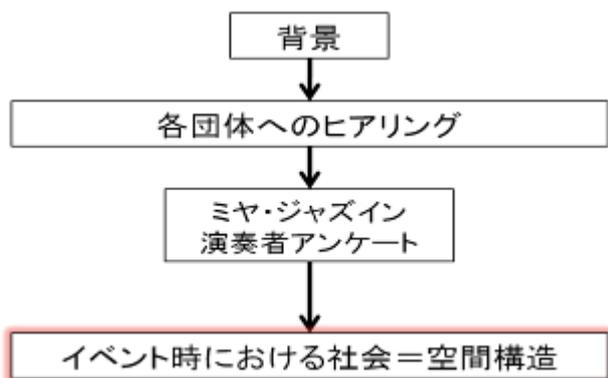


図1) 分析フロー

「うつのみやジャズのまち委員会」を立ち上げ、事業がスタートした(表1)。またジャズの民間団体を作ろうという声に応え、「宇都宮ジャズ協会」を設立し、この二つの団体を中心にまちづくりが行われている。

主な事業内容は、「ジャズのまち・宇都宮」のブランド化と宇都宮市出身のミュージシャン渡辺貞夫氏の顕彰につながる取り組みを推進することである。表2にその活動を示す。

3.ヒアリングから見る

各種団体が考える「うつのみやジャズのまち」

この章では、各種団体へのヒアリングを基に、ジャズのまちづくりについて考察する。

3-1.行政の考えるジャズのまちづくり

ジャズのまち委員会会長、および宇都宮商工会議所へのヒアリングを行った結果、行政は文化活動環境の充実を施策として掲げており²⁾、個性ある文化資源活用事業の推進を図っているが、事業によるインパクトの大きさから市内で定期的に開催されるイベントをメインに考えていることがわかった。

イベント以外に関しては、若い世代の育成や滝沢コレクションの管理などを行っているが、関係機関・部署との共通認識のもとに事業を展開することができておらず、総合施策として取り組みずにいる状態である。

表1) うつのみやジャズのまち委員会の構成

宇都宮市	公益団体	音楽団体	その他
教育委員会 文化課	宇都宮商工会議所 宇都宮観光コンベンション協会 宇都宮青年会議所 宇都宮まちづくり推進機構	宇都宮軽音楽連盟 栃木県ビッグバンド連盟	ナベサダクラブ オリオンジャズ実行委員会 宇都宮市商店街連盟 栃木よみうり 等

表2) 主な事業内容

事業コンセプト	内容	目的
鑑賞・交流型事業	ミヤ・サンセットジャズ 宮ふれあいステーションジャズ	音楽のあふれる街の創出 市民のジャズへの意識高揚
参加型事業	市民芸術祭・軽音楽祭	音楽の発表の場の創出
育成型・教育普及型事業	ふれあいジャズセミナー	演奏者の育成
顕彰事業	ナベサダウィーク	渡辺貞夫氏の顕彰
普及啓発事業	ジャズマップ、ホームページ	県内外へのPR

キーワード ジャズ まちづくり 音楽文化 イベント

連絡先 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学大学院工学研究科 TEL/FAX : 028-689-6220

3-2. 社会人プレイヤーの考えるジャズのまちづくり

うつのみやジャズのまち委員会構成団体である栃木ビッグバンド連盟に参加している各バンド、および社会人バンド Just About Music に対し、ジャズのまち事業と市内演奏場所に関するヒアリングを行った。

事業に関して、両団体からは否定的な意見が多く挙げられた。特に、事業がイベントを主体としていることから、現在の事業は商業意識が強く、プレイヤーやジャズのまちの環境づくりに対して効果がないことや、ジャズ以外の音楽を含めたまちづくりに対するあいまいさなどに対する指摘が強くなされていた。また、プレイヤー側は日常的に演奏できる場所を求めており、イベントが主体である委員会との意識の差が見られた。

しかし、事業を行うこと自体には賛成しており、イベント以外を視野に入れた今後の事業の在り方に期待している点が見受けられた。

3-3. 学生プレイヤーの考えるジャズのまちづくり

ヤングジャズフェスティバル 2009 に参加した団体、および宇都宮大学ニューマトリーオーケストラに対し、市内で演奏してみたい場所や事業に関するヒアリングを行った。

学生バンドの間では知名度が低いのか、事業に関しての意見はあまり得ることができず、またどのような活動をしているのかもわからないという意見が多かった。しかし、学生を集めてのイベント自体については好意的な意見が多く、今後も開催してほしいという要望が強かった。

社会人と比較すると、演奏自体にイベントの意識が強く、日常的な演奏までは望んでいないことから、演奏に関して満足しているようである。しかし、事業の情報や練習場所を提供してほしいという要望が多く、事業自体に満足しているわけではないようである。

3-4. ヒアリング結果から見る事業に関する考察

現在のジャズのまち事業がイベントを成功させることを主目的としていることから、ジャズのまち委員会とプレイヤーとの間には意識の違いが生じており、都市における文化の担い手と行政が十分に情報、意識を共有できていないという課題がある。

4. アンケート調査から見る

ジャズイベントにおける演奏者の意識

ここでは、毎年 11 月に市内で開催されているジャズイベント「ミヤ・ジャズイン」を取り上げ、演奏者に対して行ったアンケート調査をもとに、イベントにおける演奏者の意識を把握する。

表 3) アンケート概要 (2009 年)

調査名	ミヤ・ジャズイン2009演奏者アンケート調査
調査日時	2009年 10月31日、11月1日
対象者	ミヤ・ジャズイン2009演奏者
調査場所	イベント会場5か所 (オリオン市民広場、まちかど広場、バンバ広場、東武宇都宮百貨店屋上、JR宇都宮駅構内)
配布部数(部)	552
回収部数(部)	120
回収率(%)	22%
質問内容	演奏楽器名・楽器歴 イベント情報の取得手段 演奏場所に対して望むこと 宇都宮市内で演奏したい場所

4-1. イベント概要

ミヤ・ジャズインは 1974 年から始まったジャズイベントであり、市内で最大の規模を誇っている。当初は栃木会館小ホールにて数バンドの演奏のみであったが³⁾、年々規模が拡大し、現在は市内外のジャズ演奏家を迎え、コンベンションに繋がる取組みとして、市中心部の広場などを会場に開催している。

また、2008 年までは宇都宮餃子祭りおよび宮の市と、2009 年は宮の市と同時開催しており、宇都宮市の名物である餃子とともに市のイメージアップに一役買っている。

メイン会場であるオリオン市民広場やバンバ広場では、演奏のほかに飲食店のブースも設けてあり、ジャズと結びつきの深いカクテルや宇都宮の食文化を紹介している。

4-2. 演奏者アンケートから見る演奏者の意識

演奏場所に対して望むことは、通行人が多いかどうか、スペースが広く観客が立ち寄りやすいかどうか、音響がいいか、雰囲気がいいか、演奏場所への移動がしやすいかの 5 つとその他の意見と設定した。その結果、音響が良いかを望む意見が最も多く、次いでスペースが広く観客が立ち寄りやすいか、雰囲気が良いかとなった。

演奏したい場所については、具体的な施設名や範囲を指定してもらった。その結果、オリオンスクエアを選んだ人が最も多く、次いでまちかど広場、バンバ広場となった。また、今回のイベントでは使用されなかったが以前は会場とされていた PARCO 前や表参道スクエア、旧新星堂前を選んだ人も多かった(表 4)。

また、演奏場所に望むもの、演奏したい場所についてクロス集計を行ったが、傾向や特徴を見ることはできなかった。そこで、形式概念にもとづく質的分析⁴⁾を行い、クロス集計の結果の解析を行い、Hasse 図で表した(図 2)。

演奏スペースが広く観客が立ち寄りやすいかは全会場で共通しており、演奏者が第一に考慮することであるとわかる。次に、音響がいいかと雰囲気がいいか

表4) ゾーン分け

edge	特徴	拠点	拠点の分類	空間形態
ゾーンA 大通り軸北側 シンボルロード軸西側	雰囲気の良いさを望む傾向	バンバ広場	演奏拠点A	広場型
		表参道スクエア	希望拠点	
ゾーンB 大通り軸南側 シンボルロード軸東側	音響の良いさを望む傾向	PARCO前	演奏拠点A	半開放型
		旧新星堂前	演奏拠点A	通路型
ゾーンC 大通り軸南側 シンボルロード軸西側	音響・雰囲気ともに望む傾向 文化の中心ゾーン	オリオンスクエア	文化拠点	広場型
		まちかど広場	演奏拠点A	広場型
		東武宇都宮 百貨店屋上	演奏拠点B	広場型
ゾーンD 南大通り軸北側 県道10号,1号東側	音響・雰囲気ともに望む傾向 他のゾーンから離れている	JR宇都宮駅構内	演奏拠点B	通路型
		ララスクエア	希望拠点	

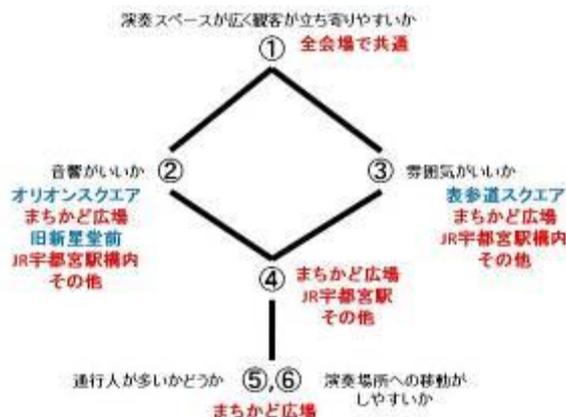


図2) Hasse 図

表5) 空間拠点

拠点名	概要
文化拠点	宇都宮市のジャズ文化における中心というべき拠点
演奏拠点A	演奏を希望する意見が多い拠点
演奏拠点B	Aに比べ希望が少ない拠点
希望拠点	演奏場所として使用されていないが希望の多い拠点

図2より、各拠点のイベント時において望まれるものを当てはめ、ゾーンごとの特徴を把握する。

ゾーンAはバンバ広場と表参道スクエアの2つの拠点が、雰囲気の良さを望む傾向にある。バンバ広場は広場型の空間を形成しており、演奏スペースの広さも確保してあるため、雰囲気作りをいかに行うかが重要である。バンバ広場は二荒山神社のふもとに位置しており、また周辺に大きな遮蔽物もないため、寺社仏閣のイメージを有しつつイベントを演出すれば効果的ではないかと考えられる。また、希望拠点である表参道スクエアもそれに準ずる形で会場を設定するのが望ましいと考えられる。また、大通り軸をはきんでゾーンBと隣接しており、歴史軸によってゾーン間のつながりが強くなっている。

ゾーンBにはPARCO前と旧新星堂前が拠点としてあり、音響の良いさを望む傾向にある。PARCO前は半開放型、旧新星堂前は通路型の空間形態をしており、スペースは確保されているが、既存施設の状態では音響の良いさを望むのは難しい。特に旧新星堂前はアーケードの屋根が反響しすぎるため、場所自体を嫌う演奏者もいる。そのため、機材などの面で工夫する必要があると考えられる。また、ゾーン内の軸を考えるとゾーンCとのつながりが強いと考えられるが、拠点の位置関係から見るとゾーンAの方が強く見える。ゾーンA、B、Cをつなぐ上で重要なのは大通り軸とオリオン通り軸であり、軸上に位置する拠点である旧新星堂前が大きな役割を果たしていると言える。

ゾーンCはオリオンスクエア、まちかど広場、東武宇都宮百貨店の3つの拠点が、音響・雰囲気とも望む

の2つに傾向が分かれる。音響ではオリオンスクエアや旧新星堂前を、また雰囲気では表参道スクエアを希望場所に挙げる傾向があることがわかる。また、まちかど広場やJR宇都宮駅などは音響・雰囲気両方に表れていることから、様々な観点から演奏場所として支持されていると推測できる。

5. イベント時における社会=空間構造

ここでは、イベント時における演奏場所の空間構造と、アンケートから導き出した演奏者との社会的な関係について明らかにする。

(1) 空間構造骨格

宇都宮市景観計画⁵⁾を参考に、イベントの行われた中心市街地について、空間拠点・空間軸・空間ゾーンを設定し⁶⁾空間の骨格を整理する(図3)。ここで、空間拠点はアンケート結果から得られた演奏したい場所、空間軸は景観計画で設定されている軸に主要道を加えたもの、ゾーンは拠点・軸を考慮し中心市街地を4つにゾーニングしたものである。

また、アンケート結果から拠点を表5のように設定する。

(2) ジャズ文化の社会=空間構造

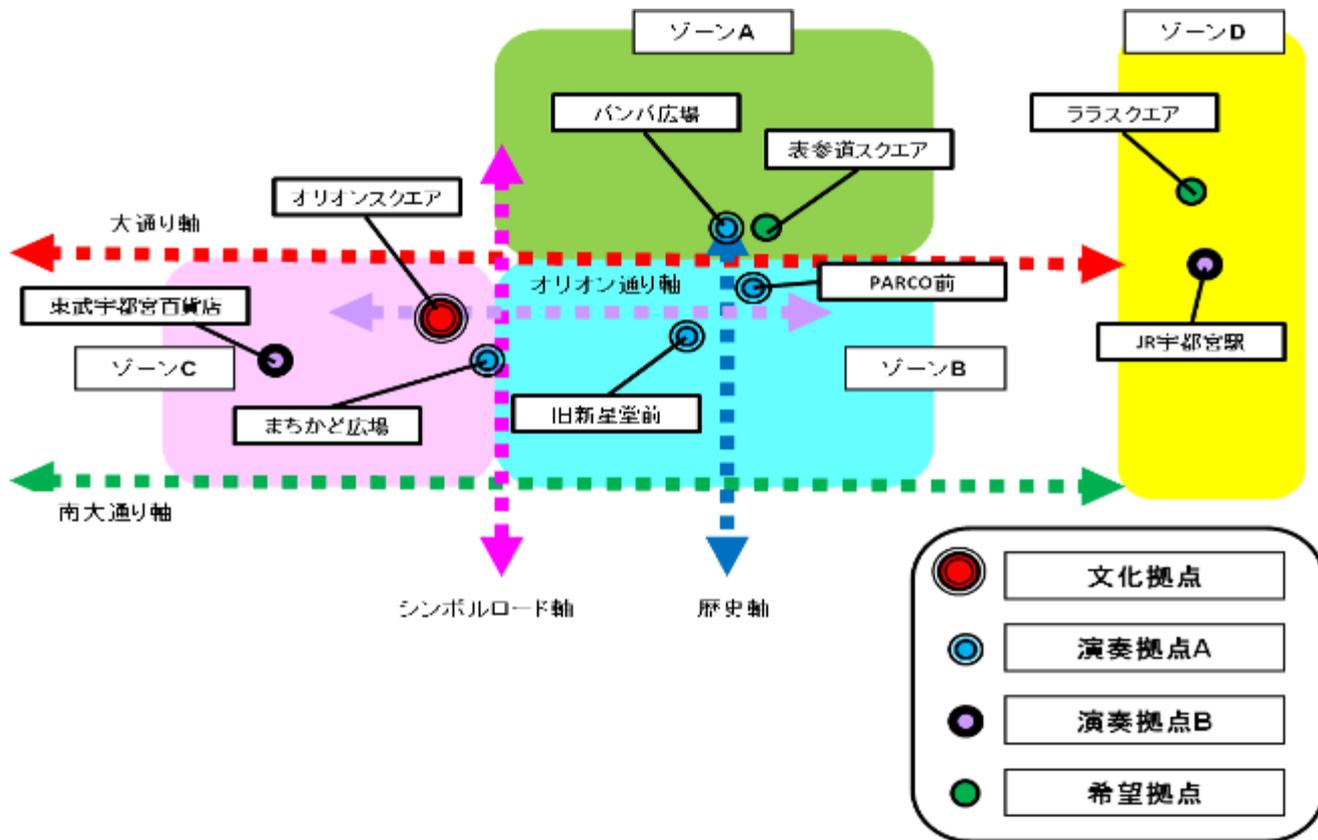


図3) 空間構造骨格

傾向にある。また文化拠点であるオリオンスクエアがあることから、文化の中心ゾーンであるといえる。拠点はいずれも広場型であるが、東武百貨店は他の拠点に比べ閉鎖的であり、観客が会場に行きづらい印象を与えている。また、まちかど広場はオリオンスクエアの隣に位置しているため、拠点に特徴づけを行わなければ文化拠点であるオリオンスクエアに埋没してしまう形になってしまうことが考えられる。

ゾーンDはJR宇都宮駅とララスクエアの2つの拠点を有しており、ゾーンCと同じく音響・雰囲気とも望む傾向にある。しかし、他のゾーンと離れているため、孤立している印象を与える。JR宇都宮駅は市外・県外からの観光客にとっての玄関口であるため、中心市街地に人を呼び込むためには他のゾーンとのつながりを強化する必要がある。JR宇都宮駅は通路型の空間形態であり、気軽に立ち寄りやすい特性をうまく生かせば、宇都宮市のジャズ文化に触れるきっかけ作りを行うことができると考えられる。そのため、ララスクエアもそれに準ずる形で会場を設定することが望ましいと考えられる。

6. 結論と今後の課題

本研究では、宇都宮の様々なジャズ団体、および事業主体へのヒアリング、イベント時の演奏者へのアンケートから「うつのみやジャズのまち」の主体意識、お

よびそこから導き出される社会＝空間構造について明らかにすることを目的としており、ミヤ・ジャズイン2009の演奏者アンケートをもとにイベント時の演奏者の意識を把握し、市街地を分割した4つのゾーンの空間構造と合わせ、それぞれのゾーンごとの特徴を導き出した。これより、イベント時における演奏者の主体意識と空間の関係を明らかにすることができた。

今後の課題として、演奏者アンケートの票数を増やしてより詳細なアンケート調査を行うこと、またイベント来訪者に対しアンケートを行い、来訪者のイベント時における演奏場所に対する意識を把握することが挙げられ、これらをもとに、より効果の高い事業の在り方を考えることが課題である。

参考文献

- 1) 塚田孝「都市における社会＝文化構造史のために」、都市文化研究 1号 124-142項, 2003.
- 2) 「第5次宇都宮市総合計画」、宇都宮市総合政策部政策審議室 編, 2008.
- 3) MIYA JAZZ INN 2009 OFFICIAL WEB SITE <http://miyajazz.jimdo.com/>
- 4) 長田博泰「形式概念にもとづく質的分析」、社会情報(札幌学院大学), 14巻1号(pp.19-37), 2004.
- 5) 「宇都宮市景観計画」、宇都宮市, 2007
- 6) 「川崎市景観計画」、川崎市まちづくり局計画部 景観・まちづくり支援課, 2007